営農ウィークリーNEWS

大原野地域にて「京都茄子」の中間目合わせ会が開催されました！

７月２７日大原野支店で、大原野茄子部会が特産品である「京都茄子」の中間目合わせ会を開催しました。

京都茄子の出荷は６月中旬から始まり、６月下旬に１回目の目合わせ会を行い、今回が２回目となります。

７月は、長雨と日照不足が続き、ナス栽培において厳しい栽培環境でした。

梅雨明け後、出荷最盛期を迎えるにあたり、シーズン通して品質を維持するために、中間目合わせ会を開催し、生産者、市場関係者、JA で出荷規格の確認を行いました。

京都茄子（千両二号）は、タキイ研究農場の長岡京市時代に開発され、京都盆地の高温多湿な気候風土に適合したツヤの良い高品質の品種で、当ＪＡ特産物の一つです。

８月上旬には栽培管理技術等を審査する立毛品評会が各地域で開催されます。

←昨年の審査の様子と、出品圃場

ーＴＡＣ information－ ナス「褐色腐敗病」

今回は、今年の長い梅雨で多発傾向にあるナスの褐色腐敗病について紹介します。

主に、ナス科・ウリ科に発生します。多雨・多潅水が発生を助長するため、梅雨の時期は要注意です。

果実では、淡褐色の少しくぼんだ病斑を作り進行すると、果実全体が黒褐色に変わり、多湿のときは白いカビが発生し腐敗していきます。

果実の被害は、多発時には畑だけでなく、収穫後の輸送中にも発生します。

この長い梅雨で、発生が見られる圃場では、梅雨明け後、薬剤散布を速やかに行うようにして下さい。

ナスにおいての、おすすめ薬剤は、プロポーズ顆粒水和剤、アミスターオプティフロアブル、フォリオゴールドなどです。ご使用前には、ラベル等で登録内容の確認を必ず行って下さい。

ＪＡ京都中央　２０２０年７月２８日　№５０７　作成者 島　裕加里

夏の農作業で心がけること

1. 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう

- 特に70歳以上の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう

2. 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう

- のどが乾いていなくても20分おきに休憩し、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう
- 足がつったり、筋肉がピクピクする症状がみられたら、0.1～0.2%程度の食塩水（1Lの水に1～2gの食塩）、スポーツ飲料、塩分補給用タブレットを摂取しましょう
  ※市販品を摂取する際は、必ず成分表示をチェックし、適切な量を摂取してください。
- 休憩時は、日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を脱ぎ、手足を露出して体温を下げましょう

3. 熱中症予防グッズを活用しましょう

- 屋外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーなどを活用しましょう

4. 単独作業を避けましょう

- 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう

5. 高温多湿の環境を避けましょう

- 暑さ指数（WBGT）計、温度計、湿度計で、作業環境を確認しましょう。
- 作業場所には、日よけを設ける等できるだけ日陰で作業をするようにしましょう
- 特にビニールハウス等の施設内は風通しが悪く、早い時期、早い時間から暑さ指数（WBGT）が高くなるため、風通しを良くしたり断熱材を活用しましょう